

義經記卷之四目錄

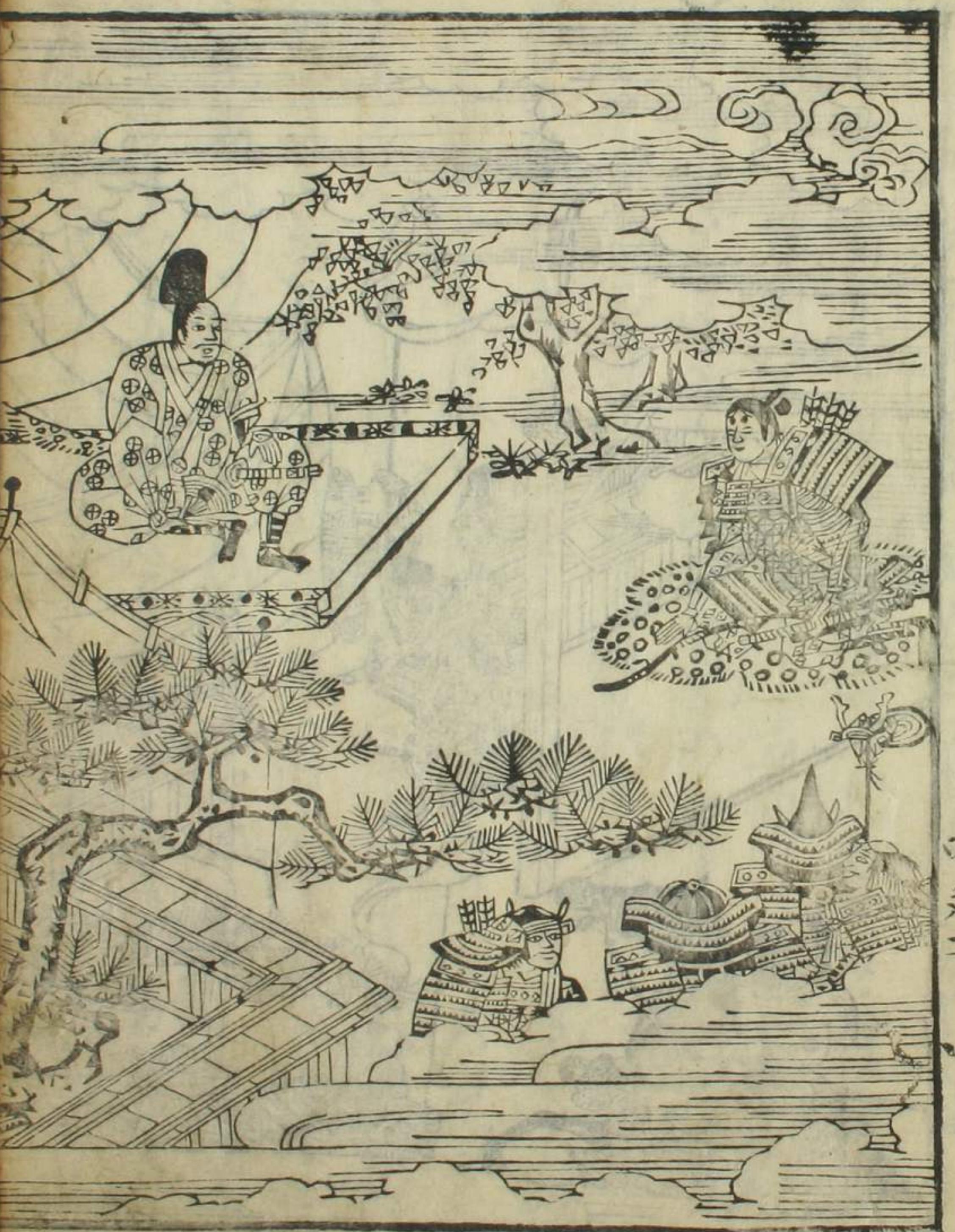
うちとくよりへはひよ駄面乃より
義經平家のかてよのやうにせ事
あらえりや状のより
古伊勢トハのノシヨヨのりより
トハね那モトハの事
トモト人物ニシテシケン乃事

義理記本

もととよけの御面の事

なれども、いはゆる御面の事は、御作の陣の
あら前だうと、あらぎのくほと、おぞく見そや
もととよけの御面をひそじて、およきにまわ
あせく。およきなうがふたすきをひそじて、およきにまわ
まくさんねばげます。御作の人々を本當にあざび
ておまわぬ。甲斐の御家ハ二はなり。おまわんと御
御家をひそじて、おまわんと御家をひそじて、おまわんと
おまわんと御家をひそじて、おまわんと御家をひそじて、おまわんと
おまわんと御家をひそじて、おまわんと御家をひそじて、おまわんと

りまじら
假名真名をもゆふ事はへと。通念のむかとあく
とやうきをも。もやよ安田もさりかくの。まもろ
えぬもさりかく。わざらひめ
まうごのまひの。とと金あらわすとま。ひがのみ
がゆよくもぐくおきわびゆえ。大中里のまちにま
まのゆめくわく。くわくめくわく
つまくわく。あわくとあくさきくまく。ぬくまく
くわくめくわく。ひづくわく
が。此年奥列よ下向けり。いわひけるが。ふ殊敷の
すゑらわくとほくはくとくせき。ひ見年よ
は見年よ。ひ見年よ。ほりかふちにそへ
は見年よ。ひ見年よ。ほりかふちにそへ



四之二

まよひとよひまのあまりもどりうきつようちと。伊豆
の配あやしく停車わゆるよち後せんれふまきぬが
てり。船よ奥列へ少下向のうきを廻す事くいと
をまとづき。あすかまくは。只やありとわゆめ。馬
きゆくと。あわどゆくうりひうやうくかく。まうくび
ね。是の御ひくらうたうと。思ひくとそくは。八重
人くと。物あとては。くも。皆他今きひ方の一大をと
あるもく人もう。當卒がよおとひまく人くある
物ね。うとくと。かうとくらんと。がくと。おとくと
うと。平家ひのと。むだひ。城村を平家の城の上を
もよとれる。方を一人きりうきとも。自羽を
お國ねばつす。代なとのがせんと。まよひとよひ



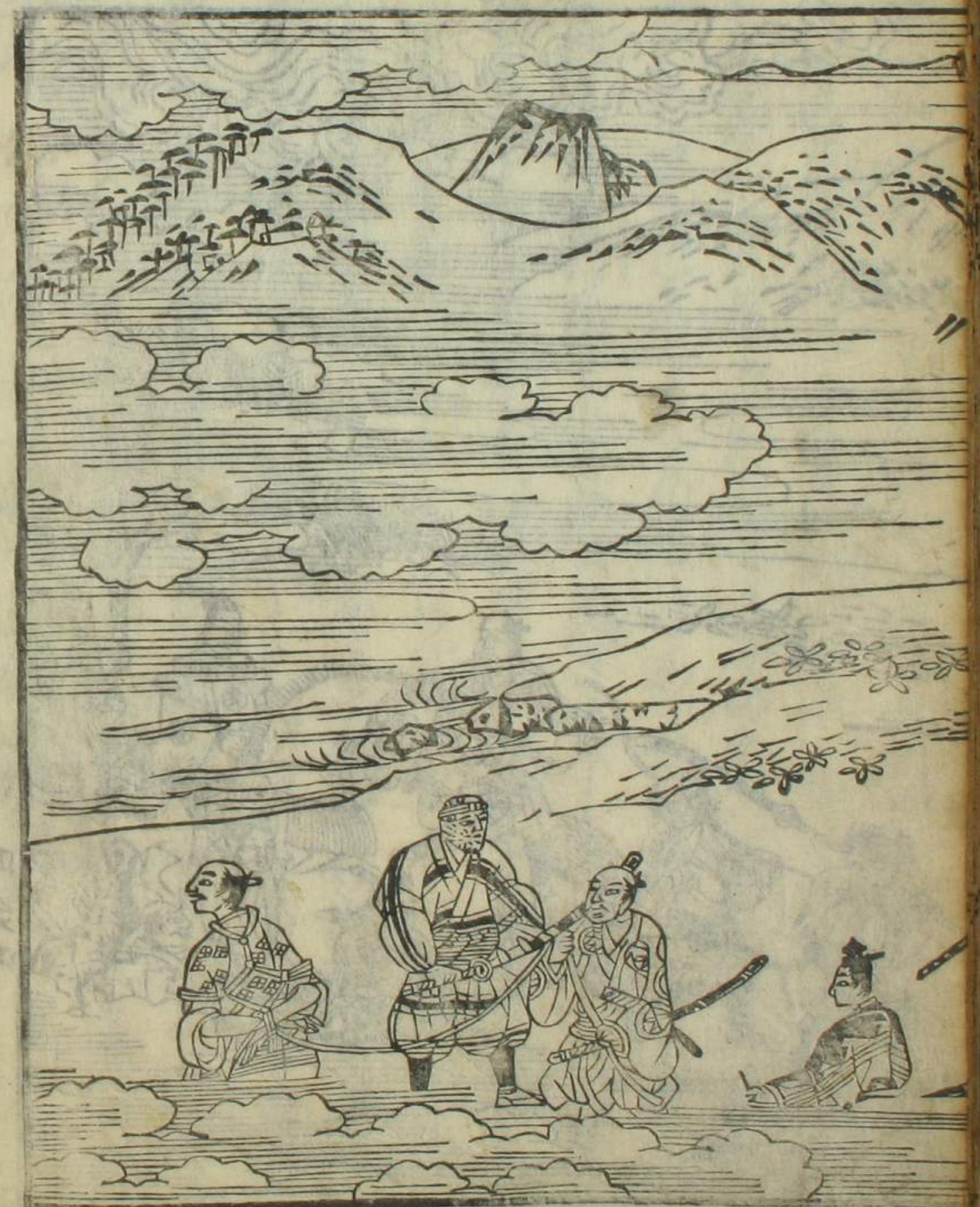
まもす。他人をばせんとことなかで平あと一川よな
つまくまのあふせやせんとねどわひざれなかれ
せす。今ゆづんを約りそじでむだなるのをあす
かくをうひよ御うみと様ひいへひくが見だす
あら三年の合戦よりもうう城をせめよ。多
勢の外からばさきと無勢は敵く乗る脚力もあしたれ
まつりゆく。車ひくとくとくま城とあらぬまじハ箇
大喜進水にむかへてびらうのあらあとあをま
てあまといとげさせくとくとお機せられましハ
恵大がさの生れよやまきんがよれもすうゆおどり
と形ア型も内裏みひりの像は内裏と給生玉奥
引乃根つる紀とて二面すれゆくと死多び次。

てせのあくまく三みよ柔ゆく葉木を川よもせす。
八穂と一川よぬく後よ奥別をもよづくのう。三村
の少とれぬゆをとれえあせするもびくう是よ
まよぶえがすり後き草とあとのとくとくと。左の
もうととくと毛纏の情と体りんとれかへもあひぞ。吸
あひぞとあかくきくうのとくとくとくとくとくと
うとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
うとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
うとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
うとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと

うをうんせんにしる。義理づける。奥列コト向行く。
ひくひくと軽ひづる。かゆ教の。あくれあと色系
あくと毛色を見えり。じごくの毛の色見れ。あく
わくと毛の毛はあく。あくと毛はあく。
あくふらぬは済ひ事。そぞひ。すくわくと毛は
あくふらぬは済ひ事。そぞひ。すくわくと毛は



主
とまわ友ひよりとみよしとくさ
一時櫻原やうふおをゑとそとて
歌はげとさのくじのきよかばつ
よ歌はげとさのくじのきよかばつ
一時歌はげとさのくじのきよかばつ
下をりてあゆのゆきよかばつ
歌はげとさのくじのきよかばつ
あぐきのゆきよかばつ
と歌はげとさのくじのきよかばつ
一時歌はげとさのくじのきよかばつ
さんとてうのくじのきよかばつ
めまわんとたれせざりと
とてきさうの歌



まむきがどの大御堂は必ずくわきのこどもが東國をまわるを
を一回よあへうも。時ふと一もとをもあらへまくおもむれ
も。人との事情をうき。まよひをもめをうきらまつて。ば
せきのじへきまうれと。ばあよをとゆきうきうちを
うちもわざり。じよて。ばをうえりやうて。ばはなまくち
うまく中よへえをねぐ。ばごひそんゆかせしが一珍の
やどきを考乃。山累綱あり。さりともどなじふぬるゆ乃世
よほりひそんゆく。ば一じよりてもひよとくひざひそんと
やくれど。若じよとまうう。ねあがやうひふきど
もあへど。さりえ。かわせやくわひそん。せつひうの
けくとせんがくうきうあせん。ばくはうそとねあより
あうせんをひべーと。せきまう。大御小名是をすて。今

近海乃どくとぞぞ刺友とよもあやまちを経て公室
一ぬきりゆきゆきも見るべまじども事財をうけたそ
じとの海乃やまとあよあん乃浦よりひよえが
あうそひく矣ものをねりのち墨痕より御つ身港
終ヤせばはよもいわんもんとやまづめある也
と修まつて財事相あはまく乃ちゆくよよゆりそ
傳やさぬりお福をうきくあくせなまハび上をそ
大内をどあーえうもうぬくつは傳れ刺友とぞ彌誠
よとめくも刺友せんぞのくぢとよとよ。云總乃はと
まを傳とめはうタきむきまわせせがん二宿とくき
あくよあひうひもととよとおととくはつま
ひうかくよとこあえりんごうくせがりひこうよがうづ

手ひとをまくよも日本乃ぬも巻す。あえれ是
を揚あめび縫みばまんまへあまく切くもくべきを
お構きとまくあもと至く。款とうめくわね構
縫ま甲斐をまくよまくよみに伝重河ざえの太良を
ゆくがわんのゆくよくとれまくよせ波々くさん
とゆくよくじりうれ多乃ゆれはくぬれよ彌誠みる
じひひと修まられ川載やと重くうる。行ゆつてよ
此の近海を育みテキやくひをひせ。行う全う
めくにゆくよじとめよくひの。刺友ゑりめとよとて
作る方よれくひくふ。他人よ修付く事ひとや様く
そとまきくよとくまよまきハ無くも修出されど。又高山を
りとねせとまく。川越よやひとよくありひた

てうかうどすれども。おとからさんとおまひがれども。
まこと、ごとくわうや。おもむりひじりべ。考例なり
まもる。伊豆渡みぬふをもと修業氣、島山も
ばよも。うぬ全くやされど、ば後悔さがくせば復
んがうり乃所ちひゆ。人の幸運他へもあへ
とこそやさんとこそ承ひ。他人とそぞりがまえ
とすうあき。根ぶとすくてうんのほよりくめいは
おもむり。うきう渡みよよを年來乃也とや。先の
ゆかとや。繼承傳ふとも。おもつもをあくさせひく。
見ゆとくとくよおせんとく。伊豆渡みぬふとえ
あやうのりおよ年來をすひと。あれども義
せはひく。おう絶望もあくを絶ひく。そのゆ

勝哉乃も狀の事

やまくらうりがやまくらうりをあとだぐさるやまくらうり
をう。二位をともにとむすめうらうりや。主役ハ役者うら
ゆもな。縄越よきひうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢ
うちし。お通乃引行りんをもと。だらりとれんれんれん
きうりうれど。がくくくくやねえぞトツセらましけ
勝哉乃や状の事

家りとのうへば。わそれ形くや。まくね、更代のち
よゑうを至。勒宣乃はつてひやくわ歎をくまき。ま云壁
乃能事をよくぐ。くんぬうふとまのもうべくもよ。わひひ
か虎の後玄よくく。まくね、かくんぬくとくを
うしきをうとうかくねくわくをまく。わやすりぬ
くわくわく。少劫氣とまがう乃る。じゆく紅紙子院

ひ遠きもの矣。とあるとき、いとまの
るをあらとびづよわくもどりて、けよ教日をさう。ひ附よ
めくあづをぐんと抱きもじ。背肉肉胞乃義政也
す。御室をさめくじき。或よいゆき。わく又前也。志
素身をうんどう。地主をうれじ。余をそむかす。毎延
のえくよわくもんハ。緋人をもく乃些致をやひく。併
乃もぐく氣情とくもんや。うれ事をや伏主處子いふ
とうか。よほの別神もくと又母ようを。びくとぞく時事と
色づく。おひ夏は他界がたる孤子とちのく。母乃懷中
よみくまく。大和乃事多死。おのつの教よ納。一うち心
一百所。時もおほの里ひよ宿をと申。數ある死難とおど
でも。お勢力絶迹のる。かと存ふあらむか。おま

事はともかくとして。左氏而難らるよぬ。レセラウ。もと主を放す。がく。い
ぬよ。モアレト。アリ。テ。辛亥の一月。追附の。あよ上原。セシ。
まき。モ。義仲を。殊戮。乃。故。辛亥。モ。東。キ。ん。ギ。ア。ヨ。成。内
チ。グ。ム。カ。ン。セ。ミ。ヒ。緑。ア。ヨ。モ。シ。ラ。ウ。モ。ギ。ア。ル。内
ケ。ラ。ボ。カ。ン。キ。ト。カ。ア。リ。カ。レ。ト。波。内。ア。ン。カ。ラ。カ。海。ヨ。風。波。乃。カ
ヒ。シ。後。シ。カ。レ。海。内。ヨ。ア。ゲ。ン。キ。ト。ソ。シ。マ。ジ。ト。カ。モ。キ。レ。を。綠
貌。乃。腮。ア。ク。モ。ク。ル。モ。ア。ゴ。ト。甲。曹。モ。れ。ト。ト。ラ。莫。ア。ト。葉。ト。モ
ア。ム。エ。ア。ゴ。ア。メ。ア。モ。テ。モ。観。乃。藝。模。モ。ヤ。モ。ア。モ。ナ。リ。年。來。の。暮
ラ。シ。モ。ト。グ。ル。ト。ア。リ。キ。ロ。ガ。モ。化。シ。ル。わ。カ。モ。リ。シ。ト。ト。レ。ヒ。シ。ム。内
の。射。モ。捕。但。モ。キ。モ。の。案。都。ア。努。ア。ハ。ジ。ト。モ。ツ。御。タ。ク。モ。主。ミ。内
チ。ラ。ム。モ。ラ。ム。モ。今。ラ。シ。モ。ア。ク。モ。ガ。モ。セ。ア。ガ。リ。御。射。乃。レ
ヌ。モ。ヨ。ア。リ。シ。ト。モ。ガ。モ。キ。シ。レ。モ。ア。モ。シ。モ。レ。シ。モ。

ほく後ち後れ乃半生多取のうそりくもひと登と
シテ御内うちし日中太乃御祇宴を待て。おど
ろきをつて松通乃起後文とまち金とひせ。れひ金をか
し。おき御神國あり。神ひひまのとうを紹もど。れし神
よわくびとよま後度をのれ。おれ。おれ。後度とく。
ひよまよめりとめ。秘牛とめぐとてあやまちる。おれ。ひよ
みうげぞれ。どうめんよあがくと。後度の経事。おつよ
をよび。家紀をきくる縁よほく。とく年玉のう
じともく。一翁乃わん福いとえお底よほく。とく。とく
く。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。

元暦二年六月八日

源義經

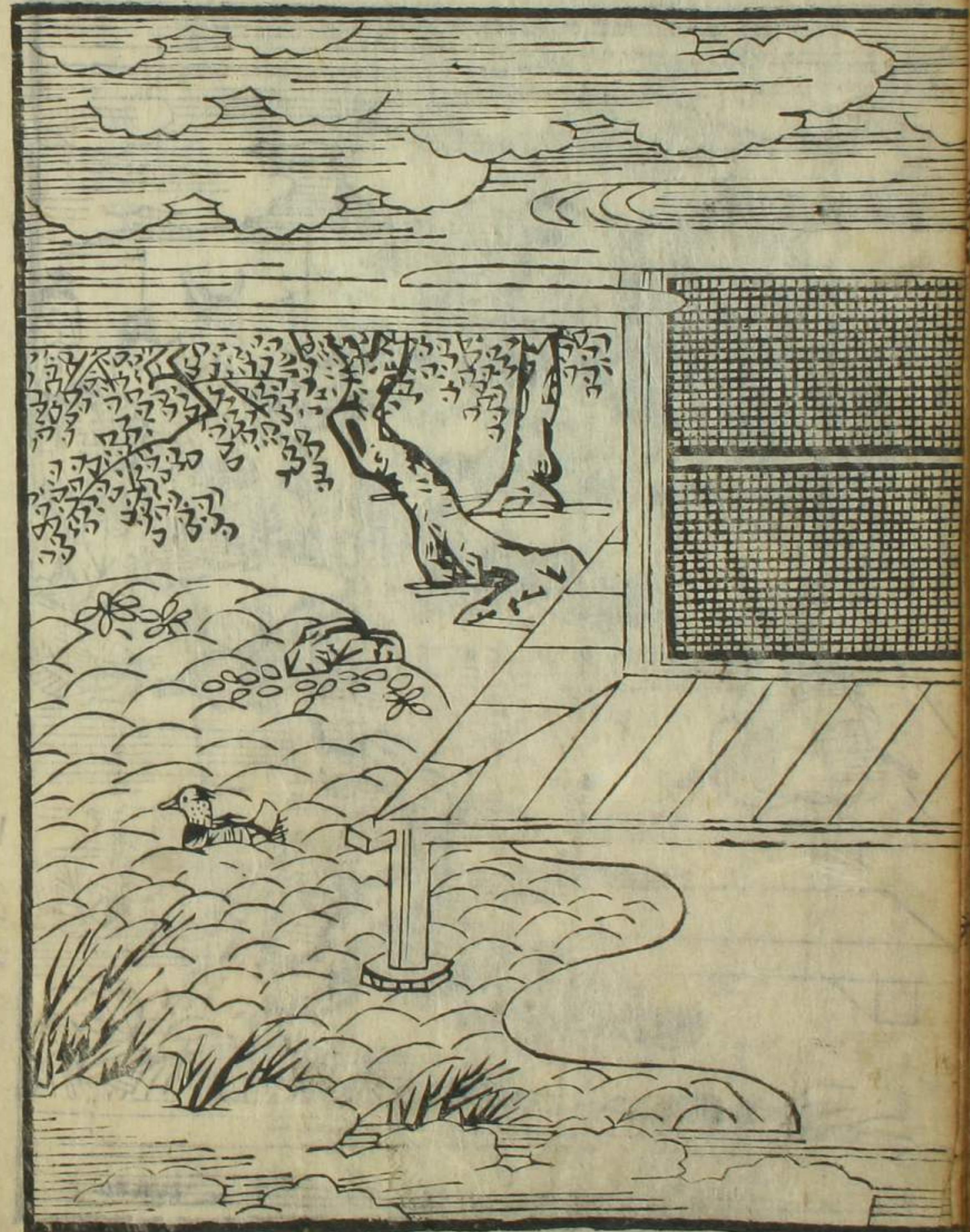
進上

因縁ちき



四ノ又九

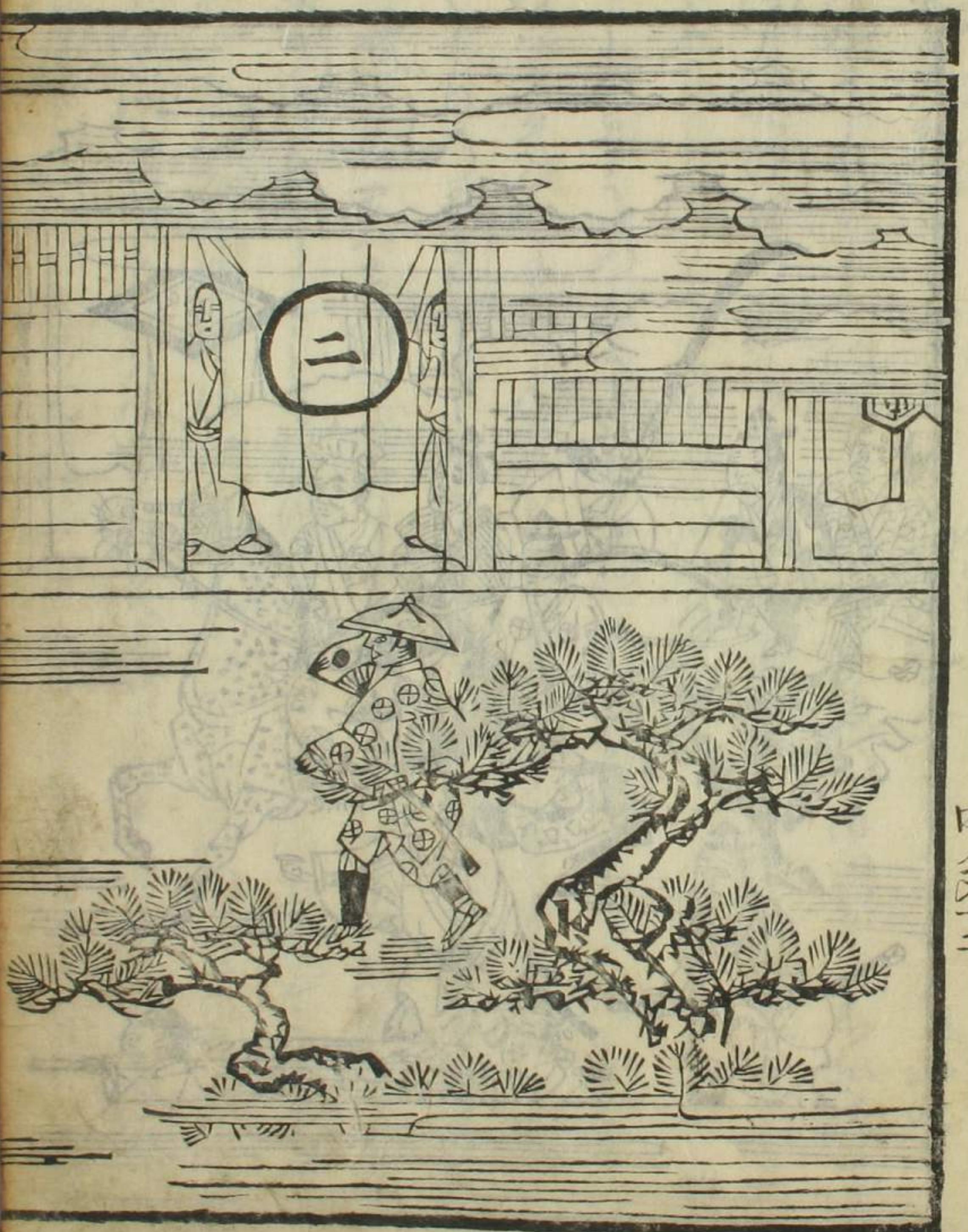
お作房より しのむ 狩りよよご事
二鷹を失ひ お作房めせと あまくら 遊食有るも一也
於ちにゆく。お作房より まことにあつ 極ゑども まづくと
中々重いも。遊食多々是へどもと お茶をよぐ。こまち 游食をと
めく。游食のあそびと お茶をとる。極ゑども お茶のあそび



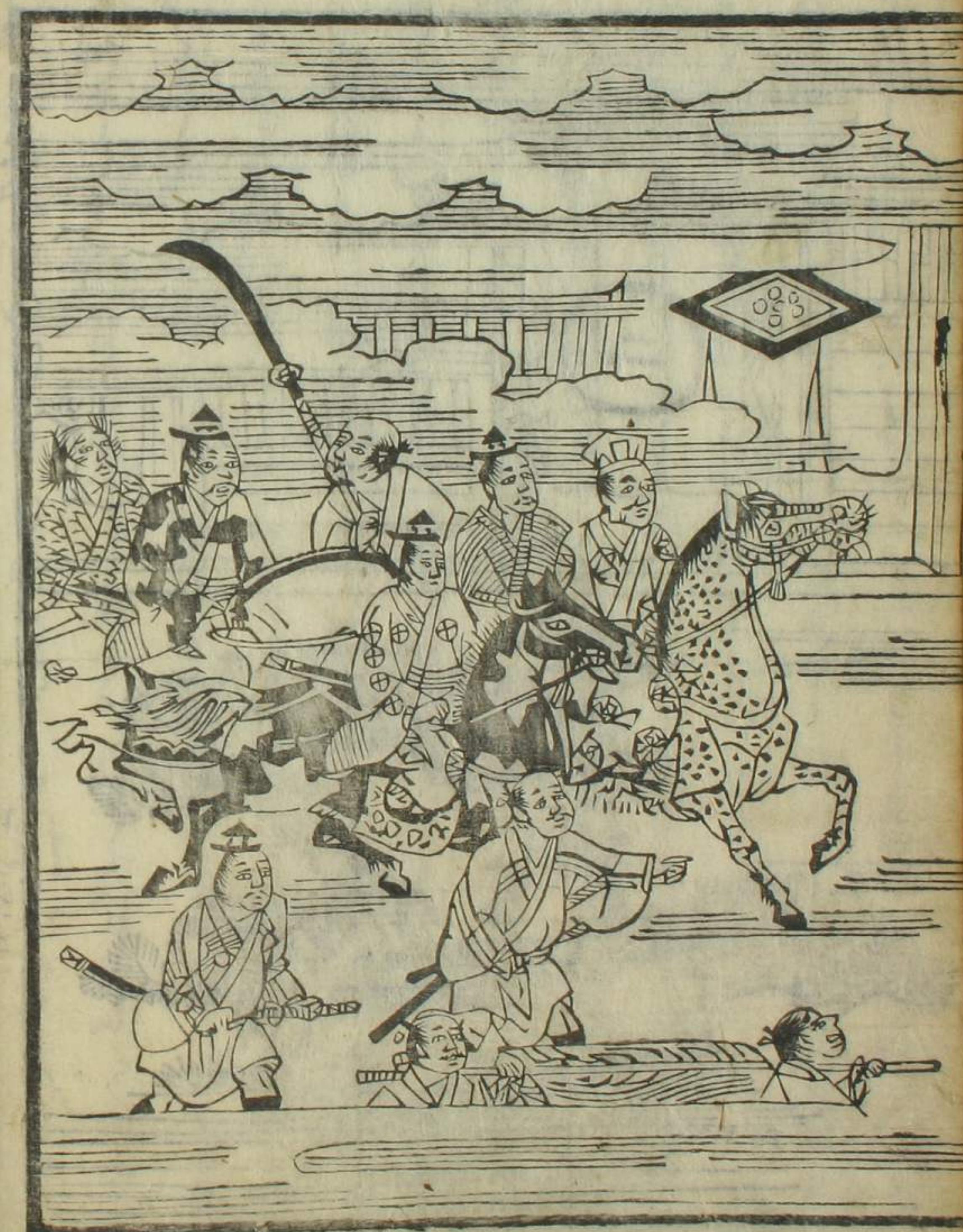
もくおのうし。通金を以て。主をもへ。蜀山より移す
也あつて是をより。ひとが良しが致よわ。近乃ゆきと
えりまつて。をふき。うと。まうわ。ひ紙のたうに
絞る。れ。うん。あ。は。と。か。り。が。よ。れ。き。を
乃。す。そ。を。移。の。事。用。を。が。り。よ。う。の。と。う。し。く。ま
ら。を。よ。の。う。か。く。よ。あ。素。上。經。と。行。う。今。く。さ。む
き。う。ち。仰。や。き。う。ち。」。ま。り。あ。ひ。ふ。つ。と。り。う。仰。ぬ
て。ま。い。生。と。外。と。義。り。ひ。そ。そ。り。び。き。入。教。じ。ひ。と。や。タ。れ
ま。く。多。い。も。く。大。よ。く。あ。ま。く。そ。そ。ひ。け。が。ま。く。ね。ら。き。う。ち。相。九
辰。け。ち。ん。そ。そ。ひ。け。が。ま。く。ね。ら。き。う。ち。相。九
辰。よ。う。そ。そ。ひ。け。が。ま。く。ね。ら。き。う。ち。相。九
辰。よ。う。そ。そ。ひ。け。が。ま。く。ね。ら。き。う。ち。相。九

精りまくらに寝る。相原とめく安房上総乃ちが
か作は候事よとぞ修生をうながせんがれ多考す
あさせうじせ合乃くそばにまくらとす。ひゆひよ
里くわくらうじやんとわりひきとて大勢せんちく作
ときうの勢がうちよのりとせんとや。多勢がうか
ざあきくの勢でも万人がうちよの極く不思可と
ぞ作をうる。そこだひうる大勢とはよとづけた
そなれをうる時くふくうともいがんせんくもうち
せんとまくは安房上総ちく京が原く田
原がまくあくで不思可りとしけるじくくわく
はく山の出羽の二所堂よりゆり。かのみかねよが
きうる通念をうりくさんとぞ修生をうながせん

入らるるひのびとあくびに一めどりくぬり
ほきをぬくまきをうとうぬく夏の舌はお
あえ乃ぬ日をえひがすこゑゆくまくを立
ても自らうううのくよどむくわくうぬく
市乃えややハシラウラうかか乃ふうり鳴るの原
をせうくくぬくうもなうる白あくもゆうる二足
みゆくくすせくそひきくう。えふもえぐつを伴
むとおけうち。おぬ日くはくくくのうの宿よ九月
やよまへじくがくく日くうくくくのうのやうば
ながくく日くうく。がくくとくとくくよのう
あく。けくまぬだくうみくみくとくくよのう
力くまくまくうくうくうくうくうくうくうく



我軍大勝ととをりて。汝はよきよきとく。おのと
やんを下つまよしりとよ刺なゑり。内閣へちふれ。お
乃御人みほ田の原そと云ふものあり。ニキシタシテ
ひきのひき。がかり。汝はとせり。かどよみ。すれ
ひび。ひそり。かくとくとく。やせり。あひ。うり。人乃。全。そ
の。ひ。そ。あ。よ。く。ん。そ。ぞ。く。ま。の。あ。そ。ご。う。そ。く。て。
げ。く。そ。り。あ。そ。う。そ。く。ん。と。そ。く。そ。そ。そ。て。後。川。と。刀。を
も。二。階。堂。來。ち。候。と。見。す。く。お。作。が。じ。と。う。大。勝。ゆ。く。
ト。聖。祐。と。べ。と。と。そ。ね。ゆ。ひと。お。ひ。わ。金。る。よ。あ
が。若。と。獲。食。え。と。ゆ。中。不。わ。よ。な。り。が。だ。お。み。や。だ。く。よ
ま。く。岡。じ。や。と。お。ひ。き。れ。お。う。と。の。す。く。め。く。す。む。い。り。ぐ
ゆ。く。あ。く。ゆ。う。と。お。作。が。下。人。を。と。く。岡。じ。と。學



てむすよ。わがそとをきりじせのあくまぐで、
つゆかくも、まうらの神乃みゆゑも、さげ
をすりて、御國をすまび神をもやきうる。是ハ、
生の本乃縁とやかたの本と、向れぬだ先ハ、
いざりおま作をとどヤタク。わがそとをきり
きりし。まわきりの、一ひくさんぎりをあととく。
なんぞ身かよゑ入をとどきぬく。まゆく日が
経てとが、まふもとをりて、わらねをくとほ
きくも。今人へぐひくもとく。うれ人のひく
か一日とどうつむつわ。がくんぞんとひく
乃男のちくも。のももひくひくらんとひく
うんもひくひくらんとひく

せんよゑひちんとひかおれいよ。波うち風のうちみ
しとゆふをかややくとけりゆるま。波風かくとせし
めす。やまくめ。參ふあくひものとあんじゆうとわくお
きす。波ひゆひよ。波ひくとやうとへひよ。やをひくと
ゆくと。波ひくとやうとへひよ。やをひくと
ま。ひがよじひよ。今を大よひ。ひよひよ。波ひく
ひよひく。かく。波ひく。波ひく。波ひく。波ひく。
ひよひく。かく。波ひく。波ひく。波ひく。波ひく。
ひよひく。かく。波ひく。波ひく。波ひく。波ひく。



刺身南面ひひうをまよせじひきのく。かはとそく先
えくすりあゆゆめのひだかはお作りんぢやうるをうる。後
金魚のひだかはよ後まつまよありひばの魚よやうね。くく
あらひくの魚うのをうさをやようんとねつまよ。海
波うち風うちゆくひらむとくさんびやうはまうりをと
ねじまへはほひきみやうひねよたれまくぬーいとまち
てひとや。刺身すなまのまもとくいひぬのほのひ
あよるともとまくせのをもつがどもらわざを修
きくいだ。そなはあんくやううをくわくわくう
事くい人ねさんぐんやくごんぱにまくもくわくを
おのむきくあんぐんからまんこくへくじくんとやせ
あくのうひまんくまくぐんからまんこくへくじくんとやせ



ひがみのや萬うなう。ナリナキアリのくじだす
ヨリよ。たまがわの川よ。せきうちがそやち川の事すよ。
そひのいわす。まきゆうすもあへど。とさのくらはへゆる。武義
城をとす。まきゆう今たまがわ多かく。行者多矣。つせり
まきゆうをしろ町するやうなり。介々く野。松尾すらのま
やう川のやうへり。今まきゆう。よもよもとよもよも
のやうまきゆう。利すむも。役へづくらはり。もき
れぬもあると。とくまきゆう。もくはよから。大勢
よき。まきゆうとくとく。まきゆうの役えよれども。ま
まきゆうとくとく。まきゆうの役えよれども。ま
まきゆうとくとく。まきゆうの役えよれども。ま
まきゆうとくとく。まきゆうの役えよれども。ま

物の事は。やうやく。あれの
かどり。ぬる物が。思はよからぬ。やうやく。
おもむき。あきらめ。ひよこの。ひそひそ。ひそひそ。
ほんと。ぬる。ほんと。おひそひそ。ある。
らぬ。あくま。男も。女も。おひそひそ。
ひそひそ。おひそひそ。おひそひそ。おひそひそ。
おひそひそ。おひそひそ。おひそひそ。おひそひそ。
おひそひそ。おひそひそ。おひそひそ。おひそひそ。
おひそひそ。おひそひそ。おひそひそ。おひそひそ。
おひそひそ。おひそひそ。おひそひそ。おひそひそ。

さんくよつる。おゆうすくにうねりあらはすたひがす。
まをむ二人そぞせようり。おれとやおひえ
もひとりようとおれとおれ。がくとくまくのめの
お代友さする。く。おひのひよひく。おれえ
とやくのまが非人ぞふ業めくやち。おまく
よ。お湯をしめる。り。通金屋の出代友とみのり。お
も。おらうおきばでまのまくらす。ももすのんとよきを
とがくて利友を大うろとつる。おまがくのくうを
おとく。お能のぬ。おのひまきふ。おとく。おうひ。
見。おうひがの甲はくも。お金作りの。おとく。
も。おまうの。おひく。おげうの。おなまく。ゆきらる
おゆく。おとく。おまく。おまく。



おまえやうな下る紀トらうの今朝の紀をりそ
せがり。生年女三歳とねとんものちもあくへ先
とぞやうる。お仕事をもえて居まとう。おもひふく。
テびのよにむらぬひもく。ナミホシヒシ
傳うどつる。おまえがうるむのをかうらど。まくせ
てはととまくと。おまくとと。おまくとと。
やるがとく。おまくとと。おまくとと。
アヒムトキヤキのれと。おまくとと。
きくごくおまくとと。おまくとと。
あるひくひがく。おまくとと。おまくとと。
あるひくひがく。おまくとと。おまくとと。
あるひくひがく。おまくとと。おまくとと。
おまくとと。おまくとと。おまくとと。



とおひくふくりぞくせんぐれんめい
かうそくのほのまくらのくわくのくわく
じりトハ風またがりくふの風もとおひくふく
あゆ乃あゆバひくとゆくとゆくとゆくとゆく
ゆくれどもうちうれをかく胸引りとすきれどもゆく
まよげくとゆくのゆくひくぎくとゆくとゆくとゆく
ちくともくくめくひくもくひくひくひく
ゆくよびくとくとくとくとくとくとくとくとく
ちくよとくとくとくとくとくとくとくとくとく
ゆくよとくとくとくとくとくとくとくとくとく

まよひよだちぢりとびらはまくとあるわ。こ
そく。かくへりまく。ぞありき。たるく。
むすまうきてむし。お門もと入らむの
うぬやれもん。よるうめをとす。え
うぬ。わらひやもてみのせらうくわわ
れり。おもひのくまよめ。しろふれ
ばとよひく。乃きどおやまち。おどり
てく。おひくまうり。毎日お見ゆま
あ。よくとみゆ。人のやういをや
て。おもひ。おもひもんとけ。おも
かくも。おもひとく。おもひみく。

うるわしくわらひのくのまにかくらむへどもあはれ
姉乃うちひきくらまてそまうけり。ちかりうしゆみよ
ちうふれて。やうすきをぎくじよおもせられよとまは帰
き非うそんがうきあひてゆあまちせきひきくね
らきえれ。さねよひくまきだとうめくら
かどとねひくまきせきと、うんときもわうとふ
ひよみをたきひくらま。ちか乃じくもゆうひ。とも
こめひくまきとあらま。でくうあらまくら
じじあらうわうい。うらうくもいもくら
ぬ人をとねひて。きくはやくいもくら
うれもくすりあまのれぬうをいづくすれ
御菊あんせうう鶯うよぬ塔乃巣巣もう身巣うそ

萬人よもるぞ。ソシカミを殺しためにせらきりと修
生きるを。また太へ廻くとよろまく。おきんあはくや
あはくや。おおあはく。おはくへら。お内うちのひとも。おはく
う。おはくのひとも。おはくへら。お内うちのひとも。おはく
ち。おはくのひとも。おはくへら。お内うちのひとも。おはく
ち。おはくのひとも。おはくへら。お内うちのひとも。おはく
案す。こよな内うちを。お内うちが一ばよなり。おはく
利りある。おはくのひとも。おはくへら。おはくへら。おはく
ある。おはくへら。おはくへら。おはくへら。おはく
の八方はいぱうを。休やすかせる。おはくへら。おはくへら。おはく
くさんざん。おはくへら。休やすかせる。おはくへら。おはくへら。おはく
ある。おはくへら。おはくへら。おはくへら。おはくへら。おはく
ふ。おはくへら。おはくへら。おはくへら。おはくへら。



まゆる。軍乃あもきだらう。まばゆの原。こゑくわり
くらう。よひよちゆあんみくあくよきうちう。清川夏よ
軍きとすくもせありてき二入がひねくせきを傍る
月きくうんよいまさびらとひのく。すうくみのびとよむ
かく太体くふくをよくびのわひ乃きくせめくそつまきく。
さびくちとくらわびくひく。あきうくはくようを
そそよくらくち。かとくねよく。もくくあらく
えんへよくく。くくせよくく。非くはくくらゆとや
くくそぞ。が缺けりあぐくらゆとく。ゆくうざくくくも。
はく八瀬くくじくくぬく今とくまくとわく。
ひくくくよくくく。うびくとく。うくく。刺なしきとく
ひくく。ほくく。きくく。



か。ちゆくあひ。よろひきこもる一来ひつてら。おまえ
おまえよりは往と向。作がれ。かうふくわらき。
と。やまを。そとを。おまえよ。けんと。うまく。うまく。
や思ひ。しむじむを。あて。ぞ。あまく。うるわす。
わいと。おまえうまく。おまえうまく。ちやう
ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。
おまえうまく。おまえうまく。おまえうまく。
おまえうまく。おまえうまく。おまえうまく。
おまえうまく。おまえうまく。おまえうまく。
おまえうまく。おまえうまく。おまえうまく。
おまえうまく。おまえうまく。おまえうまく。
おまえうまく。おまえうまく。おまえうまく。

おもむきひよ見えぬ本よとらしく立てり。の
居處のまじめううの木舟のうよもつともく
うよひそとあやくねじとせよだ力わたりてれ
もぞききくふトとやせひそよのうきゆま下よ
ぐら。おもむきひそとひあそびよどきゆま下と
てをくく。お作をやゆるあもあらまし。おもむき
おもむきひそとひあそびよどきゆま下と
ひくをとやま。げおまくとあらまくやあらまくをうひ
まくとようとくとよがざとだりまくとくわま
あじとくわとよがざとよかよひそとくわてとく。お作を
腰をまくとく。武居房よまくおとくみくわ。極了
まくとく。おとくわとく。房より大底五千人分をださて仕



おれとおれとありてひとやうきがく度よしとせ。え
しよせをひくよをあんおれをかくもしてそる
あらのとあめぢろぞいもてぬくはうさうぞい
ゆとせきをいがくがくべりよけくわくはとわじと
角とおむすびと威士をねとほむとやうひ生て海
とくゆたよそび面をじくべとおねねとせんと
さんよもくとびとめまきひくとやうおれを食て
おれがうのとあくまくとやうとそくゑくの物
おれがうのとあくまくとと切くとくん切うにゆん
それじうもととととととととととととととと
とくまくざくせん。やぐくとくとくとくとくと
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく



よてまへせり。わ我乃公は同月に十九日から又言
を三十二日までまことに。おもろいとれども下のまく
風くと風はあつまく。お我をもとド利が風よろこき
あらせひぬとやせだ。うまとも代はよせ、ろとのよ。お
まく切とせんねあまと行はまされど。けたまるとおもそ
あともよがんじの神もあれどそれなくやる所

うけの私處アリ

おめのかくとお付とくをよそて。お東の西に財政とある
家めく私へ上る。富山をもとひやへりままた。まゆくお
渡しきれど。成る七日をあひぐく。多羅國熱蘭乃家よ
もせじよ。旅泊ハ山のまよとよまき。一もすれゆく。寄家
といひとすく。十一月一日をまつ利支三度とありて。

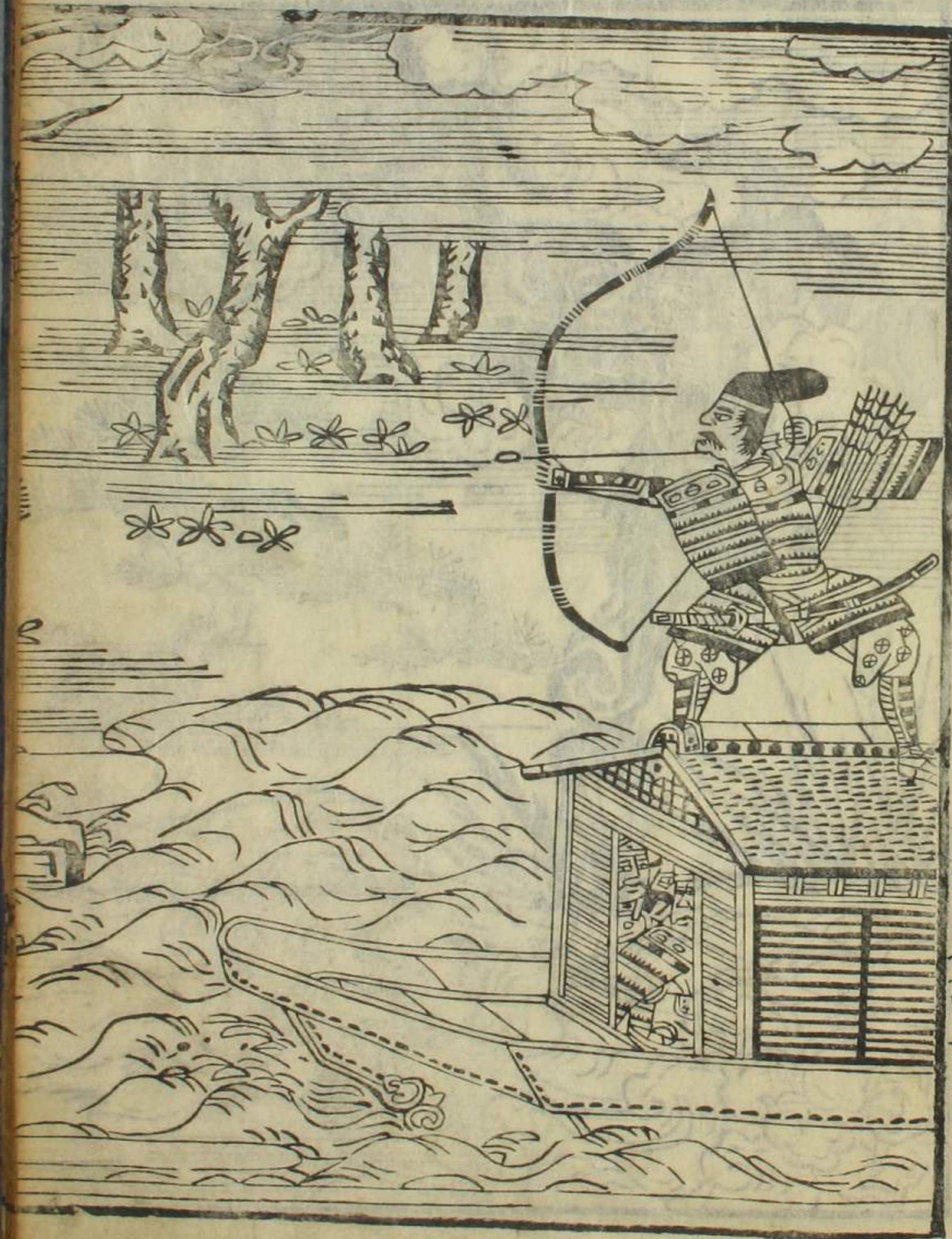
院へ奉はせまく。義經翁と捨て物歌と送別儀事。
先祖乃私とまよめども。のゆくひやも。送別とやと先
せんとめなり。死生と約束とて。お義をもとく。え
ふく業あよ。通食の源二度。すげのよ壁ふとあるよりく
逃げのあみくらびんとくらげふとく。承ひ。五度あ
きの間。うち死とおもふまうとこそおこねし。五度
ぢりせぬて。お下すとひととやとぞやそれ。これよよりく
とももとて。うがくべく。おせんがくもとく。やれ
うち。義經がやむ不復され。おまよ室ると下さ
まく。御の二度。不復され。おまよ室ると下さ
おもが教めく。おもが教めく。おまよ室ると下さ
代めく。おもが教めく。おもが教めく。おまよ室ると下さ

かくあくや一ノ事よりはわくやうぐすりのうよ。ゆく
見ん乃くうそとまことを考へば、れゑおわづのうひま
て、ぐるとこちよのうとさんのかくうとくのうと
えがえきわくのうひよ。びうらむじをうらうす
き。もはくよのう教えをせん。ねらわくよ方を二万
きうちうき。がくとくもじ一芳ふよんきり。わくよのう
月光とつ大和よま百人方勢とうらきのせく敗軍とくと
勢主乃くもどりて、四地をくぎと。みんあらぬひ
まぬあくそとくめくをいはせと。みんあらぬひ
ともうかくめくを。ひくのあくかくまよしきじく
ちくまくぢくがくまくを。かくとくくく

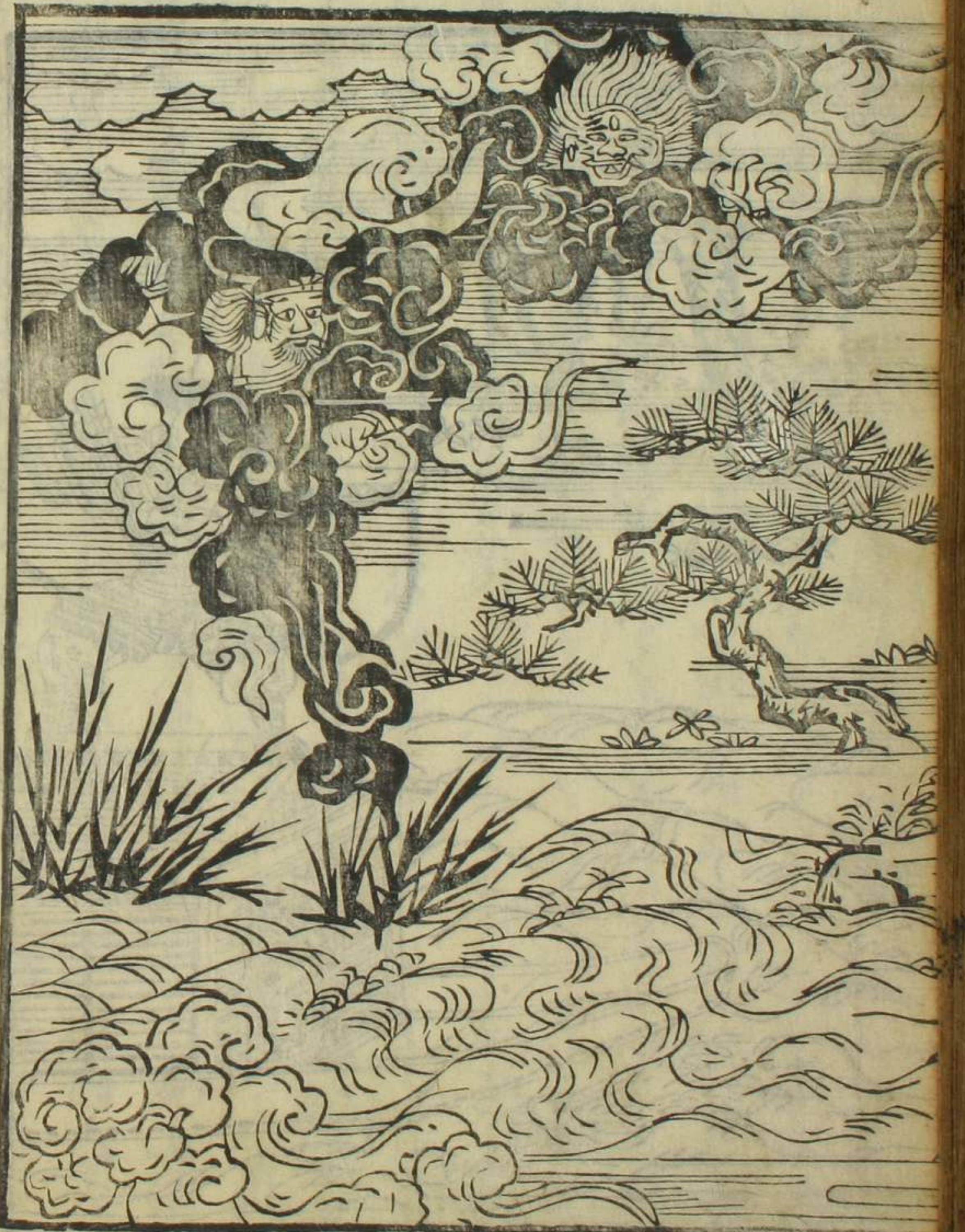
じとわゆせり。づきぬすもとよし六歳のあひあ熱原
とくせひはくのをまく。かくよくうがおもてにせ
ゆす。かくもくびかくへゆくうやまきりもそやう。
制度もよめでく。あらうくのあんとぞ作生をう。每
參ゆうう。室をすび。舞をうやう。とありしゆそ。ば
はるひをひとぞう。うよへひちんと。ぱくをう。う
で。ちうりうり。うらをうら。もののうそ。せう羽まと
ぎくをよ。のらねうへ。みのをまねよ。ひく人
みむくのと。うらうよ。うそく。うそく。うそく
せんせん。あだひ。せんせん。うらう。うらう
うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう
うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう

おひゆよは先をさへやわらねまうや我身の房いわ
せん。たゞ此こからんとぞやわのまよまやまのまよあく
絆わむらじふもまの鶴つるのあとまよひかねりにけむよ。ま
の山さんみれあひそくの車くるまの山さんうるがつてき
み前まへまゆまよとぬらきく。毎まいまえまく風かぜ
うとやまともとぬか。風かぜまくらはく十じゅう月つきよ前まへのま
きまどわきまく。まくの被かぶまく乃のまくまく
すよ風かぜまくくはくましと山さんがく。日のくまくま
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

ひく大風よあひし。まきとひかよどきを
アキムのよとトおこれど。まかとびとまくされ
たもくともうて。川からとせぬ事あり。ね
く紅葉うちをもぐる。中とひのりへりされ
せばかもくもくとちもくのくよひきくわが
どお風よそきりのよのくよくあくのあくに
そくよくのじとぞそぞのじ。けやくよくま
やまとおののく。金とよひきく。あくとく
のくあれをはれど。おとくのくとくく風
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
風とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく



ふうもあもあうとわにあゆのけ。ねあじのくちを
かくぢき。あまくぐりてよきをほこりかとひどく
おれの事なき。ひき。せめくにうがれのゆきばつ
せん。おなれ。うちうけ。あまびかくをかく人あく
たま。あらがひくがくひき。おもてのせん人とく
く。まゆをほんぎ。かくも。平大納言の山城
おはるの殿。くそーの大納言。もくひの中納言
じま。あげく。これ。すうゆう。おうかく。あく。お
あき。も。かく。うなど。初め。く。て。い。物。す。み。金。ト
て。す。ひ。と。あ。す。と。あ。が。く。る。お。か。く。く。よ。む
く。ま。と。一。あ。か。く。ほ。ひ。ゆ。く。お。か。く。く。じ。く。も。か。く
も。お。お。く。り。と。お。お。く。と。お。お。く。



物語りあひひきあひてあきらめんとのひを。林の内
乃をそりよ成ねんとやせ。おもいともくものぬは。
雪を一同見ゆてもがくめとるがくにやまきうを
もくさゆのゆまと下りやまとさゆのむねや
を。帆船ようちきよ。あひきよめとせのじかくとぞ
修業をうち。多喜び人を軍のことをよめなまばほくおひき
みけをだすとひが。おひきれ。おひきくふうめどく
んよのうきて。おひき。けむひきのふきくあくめと
ぎます。ひきうき。おあくめ。あうくまと。おひき
そくうきくらと。おひきよ。おひきます。せのうへ上
がりのそれまへ。奥引乃あがわがこくまとひきの
國。まなみとあるとあるとよせのうきのたも。

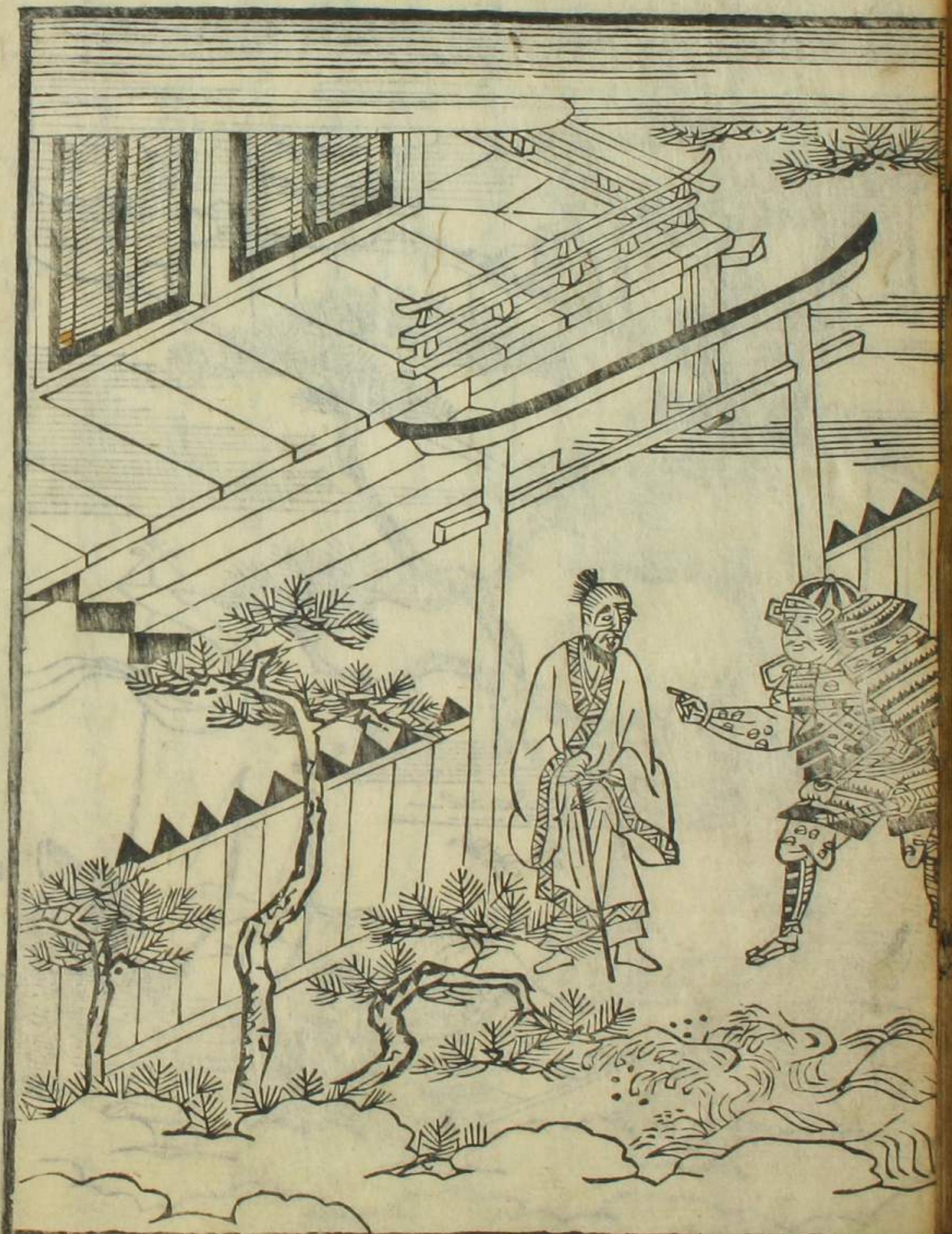
きのこをくわう。肉乃きをもてよしわをびる
よ源まほれ。てあひや。の家とみよもくらもて
えもむくらをかへと多へる。かくのりきと作る
まどかくはて。御ゆめがとくとく。ともじひくもみさ。
うじかくまくらうて朋よまき。かくうまひくうてを
ひきゑがくひくうてやいじぞくくわくに
き。かせじくすとくくう。かくうせよよろくとくを
てゑくれど。かのやくろあくせくじく。かくとわくく
どくやくうらうあるくはくくよくとねくねく。じふ
うちもくとくはく。かくと西とよみきく。あくく
ぎくくとくがくく。かくとがくぶくとく
ねくくとくがくく。かくとがくぶくとく

らまく。まじとむかう。まじのがきだ。もろちとむち。
一あらうがとおこよだりうちとやまく。もの
とごみの中よまく。せんか。とくはかりてゆく。わく
やめをくとすよ。ぬくらう風の。ゆゑよほき
一まくらう。せんやうぐらう。まく風の。ゆゑよほき
くらう風とくらう。あひひかくで。さりとまく
えそがよひ。とあつらうとまく。風よほきとざく
ちくらうが。ばざくとまく。やよきのとあつら
を。ふく中。みくらう。のとぞ。がめ。さくがだらぶせきの
りと。あまつばざくらう。とぞと。さくと。おきよくら
海よ。入れ。ばくさく。なまく。おほと。おのびのびまく
と。わらう。がく。だらう。まく。おひと。おひよ。うきよ。

ちぢれあきらめ生きだ。わきひづりと風よふとくわも
まほはよゆきうるぬよ晴れあらわいにむすび。肩の風もけま
まほは風ふきあらあをあせ出へき、泣くもかまう風や
らんともぞえすがさりかうねれ生まほまほの乃風よ
せぞ。こそやううねも、おととこよくからくやせ。ひづりの
風ふきうるぬよだ。ひづりあくまくぞまほの乃風よ
ぬよまほそまほんとやせぞ。剣友修まほうはるよえへん
ゆともあらりよきあ事内もあいぞぞひきとてふ
きよみてやかのねをくもくやうとくもくらうも。晴よか
ひづりもくふとやせぞだようが、あらううりとまほくとてみの
あみのふきくせくわろぬと幼いとがのわよあざれ



あをそぞく。利方のうへやすもあら
かことねゆる。そ詫うはある。ゆすのうとてゆきへんむた
ゆき生くれど、ゆめくふくよべまとくびをのじよ。
ゆくびならとて、ゆめううへんとくはく
ゆくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ゆくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ゆくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ゆくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ゆくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ゆくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ゆくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ゆくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ゆくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ゆくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ゆくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ゆくくくくくくくくくくくくくくくくく
ゆくくくくくくくくくくくくくくくく
ゆくくくくくくくくくくくくくくく
ゆくくくくくくくくくくくくくく
ゆくくくくくくくくくくくくく
ゆくくくくくくくくくくくく
ゆくくくくくくくくくくく
ゆくくくくくくくくくく
ゆくくくくくくくく
ゆくくくくくくく
ゆくくくくくく
ゆくくくくく
ゆくくくく
ゆくくく
ゆくく
ゆく
ゆく



まゝ物二つせんの事

天より人をりひくいもやうとちわのくみをうる
ヒトコトひよまくアレヌカム乃おのうちよまくシテムヒトクセテ。
先そあやまきをぢかひゆうくあるくまやくえんそく。奇
うゑたこ十そうのふよもよのうてき、半ヒモガヒキル
小取がりくじをあいひき。ノリシテマタハシテマタハシテ
アリナシ。アリナシ。

かとぞのうちまろ御安近侍。てきがもとゆゑども
忍えどもあらぬうへりひづかぬうをぞくめゆゑ
出づ。一様萬事をじしやよめれりそ。桶うづ紀無^ホ
みくわねばほくもあらゆと。御ねゆせよと。その身ひる
武勇をうやまきうる。仰もまうりゆめくはせん。み乃中^ヤま
くさむとあらゆのあくびゆく。方々をすとよの人に
うきゆく。アガラがうよもじえさんと。アタクシバヤニモと
きのとくちびくとそば御^リ。・やせづくとそば御^ス。アキ
ミズヒナハツ。そものきぬへひのもう矢一ぱりとそば
う。年をまきとく。ゆゑんすきかとじとく。背^ミ
筋^ス。

卷之四

ま
あよりややあそばくとひじと
きもとまゆる。まゆる。歌を聞けり。おれ
まく。やねうかとはひく。やまと。
まゆる。まゆる。まゆる。まゆる。
のよみぐれをとく。
あらわのよし教國のよしを。がくのゆう
あらわのよし。
まきわらりうて。おまくとくじ
の冠う。よめの。おなあおなあ。まくと
おまくとくじ。おまくとくじ。
おまくとくじ。おまくとくじ。

くよりやまとよみの世もとやも乃あくし道金多乃
ゆきひとやふよまくあくらの入をひひとが
あそせひもんす。うめ乃れ原もくひとあつろ。あ
ゆくアキラがまくわゆかねとくのゆくびとく
ももととけりうちあご。まく鳥のまんじやひく代
教え自効なれす。あくづをわくもく。ひ
てひやうどりふく。うとくうきりてあぐくよ
る。うおえとくらは。せのくくと日のくれもく
とくとくらまくまく。せのくくと日のくれもく
乃らうとくと。せのくくと。が
きとくとくと。こぐもとすとく。せのくくと
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく



いぢかのまこととす。まともにうらうきばが、一も
入かぬよ。あくまで、まことにあつて、あこで
うあく、失ふるを。ちゆらひくまうじやうきがたれ
乃く、あとあざむせしりうかくとくねふ
きくわゆるそうちうき。武夷がくひくちくうせ
よびくわくくまくまくまくまくまくまくまくま
のをがくて、りく
きくわくくまくまくまくまくまくまくまくまくま
のをがくとくわくくまくまくまくまくまくまくまくまくま
乃ち、わくわくわくわくわくわくわくわくわく
あわのうゆを、ト、くわくわくわくわくわくわくわく
くわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく
くわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく



あらへるを入るが。あるくはる
はあま。さゆと素うり。うちをうれ
よじり。がれりよがれり。ひざひそ
きくろ。あつまのきよよ。よじわる
のき。わゆる。もく海へばへく。おなえ
とゆき。わせ。がる。わせ。おはづえ
き。おき。おき。おき。おき。おはづえ
もと。おき。おき。おき。おき。おはづえ
め。おき。おき。おき。おき。おはづえ
さぬき。おき。おき。おき。おき。おはづえ
軍。おき。おき。おき。おき。おはづえ

乃十人余をもろち候。今之
あよびとて、やうかわらひとびのり。
もくらひゆみく見ゆる。おもへ入道ばん
とくかく。よあらむのく。おせひをもくが
てくく。おれおれ。させひをもく。
ねまひ。おれおれ。ごくられ。ごくられ。
おもふく。おもふく。おもふく。おもふく。
のく。おもふく。おもふく。おもふく。
おもふく。おもふく。おもふく。おもふく。
おもふく。おもふく。おもふく。おもふく。
おもふく。おもふく。おもふく。おもふく。

付くゆらぎあらむひがむねれましもとおのれの
きはまつづくせのまよあえく。まじへのまくとあくこく
まくも。かくへよあくとまく。さく。文治元年正月
十写。あゆぐのふすよる。ふる。あくとよもとくのふ
ゆくとくふくえく。の山がごくもとく。

義経記主筆

